

| | | | |
|--|--|------|------------------------|
| 分野 専門分野 | | | |
| 科目名 母性看護学実習 | 単位 | 2単位 | 開講時期 2年次～3年次 |
| | 時間 | 60時間 | |
| 講師名 臨床指導者・臨床指導教員 | 実務経験 看護師・助産師 / 教員（助産師） | | |
| 授業概要 周産期各期・女性のライフサイクル期における看護を必要とする人々を理解し、対象に看護が提供できるための基礎的能力を養う。 | | | |
| 到達目標 1. 妊産褥婦および新生児の特徴・看護の実際を述べることができる。 2. 思春期・成熟期・更年期・老年期の対象の健康問題と必要な看護支援を述べることができる。 3. 母子とその家族を支える地域母子保健福祉を理解し、役割を考える。 4. 母子保健医療チームの一員である責任と役割を自覚し行動できる。 | | | |
| DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○ | | | |
| ◎ | 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 | | |
| ◎ | 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 | | |
| ◎ | 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 | | |
| ◎ | 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 | | |
| ◎ | 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。 | | |
| 授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】 | | | |
| 授業内容 | | | |
| 実習要綱【母性看護学臨地実習】参照 | | | |
| 病棟実習 | | | |
| 1) 産婦の特徴・看護の実際を述べることができる。 | | | |
| 2) 褥婦の特徴・健康生活の維持・母子関係成立への援助の実際を述べることができる。 | | | |
| 3) 新生児の生理的特徴・胎外生活への援助看護の実際を述べることができる。 | | | |
| 4) 切れ目なく母子とその家族を支援する方法、内容について述べることができる。 | | | |
| 外来・地域実習 | | | |
| 1) 妊婦の生理的特徴・看護の実際を述べることができる。 | | | |
| 2) ライフサイクル各期の女性の健康増進、援助方法について述べることができる。 | | | |
| 3) 周産期医療、母子保健施策、制度、社会資源の活用等を結び付け、地域で切れ目なく母子とその家族を支援する方法、内容について述べることができる。 | | | |
| 受講上の注意 | | | |
| 母性看護学方法論Ⅱの演習等振り返りをしっかり行う | | | |
| 評価方法 | | | |
| 指導者と情報交換を行い、評価表に沿って総合的に教員が評価する。 評価内訳：病棟実習（55点） 、外来・地域実習（45点） | | | |